

季節を楽しみ絆を深める

立町 神澤 広美



学生の頃から、私は四季の中で春が苦手でした。新学期を迎えるなど、環境の変化がとても憂うつだったのです。

子どもが生まれ、やがて保育園に入り新しい生活が始まると、季節の行事が目白押しです。曆にそった昔ながらの行事をたくさん体験してきます。

それに倣うように我が家でも、子ども中心に七夕やお月見、クリスマス、お正月、節分：とイベントが行われます。もちろんそんな派手なものではなく、七夕には短冊に願い事を書き、お月見には団子を食べ、クリスマスはちよつぱり気合いが入り、部屋中飾り付けでいっぱい。「サンタさんへ」と、お菓子やお酒(?)まで用意されます。お正月は親族と過ごし、節分には泣きながらの鬼退治と本当に

賑やかです。こんな一年を過ごすうち、私の春嫌いは忘れられていききました。子どもたちと一緒に季節ごとの行事がとても楽しいものになっていったのです。

我が家には「これだけは」というこだわりや古くからの伝統というものは何もありません。二月の豆まきも、折り紙で三方を作り、夜になるのを待って家中の窓を開け、「鬼は外!福は内!」の掛け声で豆をまきます。その後は年齢の数だけ豆を食べ健康を祈る、ごく普通の毎年変わるぬ光景です。

とは言え、これは私や主人が父母から、そして父母もきつと祖父母から季節の習わしとして受け継いできたものなのです。どこまで遡るか知れない歴史の中で、我が家の「豆まき」等が

行われてきたと思うと、改めて行事というものを見直し大切にしていかなければと考えさせられました。

私にとっての伝統行事とは、豊かな季節を楽しみながらその恵みに感謝すること。そして家族・地域の絆を深く結びつけるものであってほしい。そんなふうに感じています。



LINE GUN

昨秋、第九回カノラ芸術祭の新たな演出になるオペラ「御柱」に参加した。

「幾千年もの諏訪の歴史、この歴史の流れは数えきれぬ命の重なりの上にある」と歌う。男たちのさまざまな戦いの後に、ミナカタの気の力、ヤサカの霊の力、モレヤの呪の力、タケイの理の力で、諏訪の地は守られ、光り輝く諏訪湖に御神渡りが走り、この素晴らしい諏訪の地を守る四本の御柱が立ち上がる。このオペラは終わる。

今回、御柱祭や生きるという安らぎの裏には、いつも女たちの冷静かつ愛情溢れる陰の力があつたという演出家の解釈が加わった。また参加者自身にとって御柱祭とは何かを問い、あらゆる場面や動きに自身の考えを投入せよとの指導があつた。

世界のあらゆる出来事に対し、それは自分にとって何なのか、どう思うのか、自分の考えをしっかりと持って、生きる姿勢の必要性を、立春にあたり改めて考えている。(上脇)

私が思う家族と過ごす楽しい時間は、家族一人ひとり違います。

まずは、一緒に居る時間が一番多いお母さんです。私が学校から帰って来てからの時間が楽しいです。この時間は、その日学校であったことなどを話します。あまり面白い話がないときは、お母さんが、仕事の話や友達や友達のお母さんの話などをしてくれます。話を聞いているだけでも楽しいです。

次はお父さんです。お父さんは帰りが遅くて、一日中一度も顔を見ることがなく終わってしまいう日もあるので、お父さんの帰りが早い時は、習い事のことや学校のことなど、たくさん話します。あまり話せる時間がないので、次の早く帰って来ることで、次の早く帰って来ることで、次はおばあちゃんです。おばあちゃんと一緒にいるのは、休日が多く、のんびりしながらお話をするのが大好きです。よくお話をするのは、たいてい、おばあ

家族一人ひとりと話すこと

ちゃんが先生をやっている塾の友達のことです。学校の友達のことをおばあちゃんと話せるのは不思議な感じだし、おばあちゃんの方が、私よりたくさん友達のことを知っているの、聞いてもらうより、聞くのを楽しみに話をしに行きます。最後はおじいちゃんです。おじいちゃんとは、畑のことを話します。たまに畑に不思議な植物があつて、そんな話を聞いたら、真っ先に走って行って、家族全員に話します。おじいちゃんがいなかったら、聞けなかった話もあつてよかったです。これからは家族と過ごす時間をたくさん作っていききたいです。



下諏訪北小学校6年 宮坂 ひより



下諏訪中学校2年 細野 佳史

僕の家は四人家族です。父と母、一つ上の兄、そして僕です。父と母は働いています。兄は部活を引退しており、家族皆、生活時間はまちまちなので、平日一緒に過ごす時間は限られています。まだ僕たちが小さかった頃は、よく家族で出掛けました。夏は海に釣りに行ったり、キャンプに行ったりしました。冬はソリに行ったり、少し大きくなるとスキーに行ったりもしました。だんだん年が上がると、その時僕たちが興味を持っていたことを、家族でするようにになりました。

兄が興味を持ったのは、鉄道です。この辺では見られない電車を車を見に行ったり、兄が小学校を卒業した時は、新幹線で広島に行ったりしました。厳島神社、

ONE SOUL ～思いは一つ～

原爆ドーム…。今でも心に残っています。僕が興味を持ったのは、サッカーです。時々、天気の良い休みの日に、近くの公園で、父や兄とボールを蹴ります。短い時間ですが、気持ちよい汗をかくてリフレッシュします。部活の応援にも、家族皆で来てくれます。また、僕はボート部に入っています。県内にはボート部のある学校がないため、試合のほとんどが県外です。遠いところまでわざわざ来てくれて、大きな声で応援してくれると力が出ます。こんな時、僕はとてもありがたいと思います。

こうやって僕たち家族は、一つのことを皆で同じようにしています。同じことをしているうちに、好きなものが増えました。同じ話をしていると、盛り上がりやすくなります。僕は、家族と過ごすこの時間が楽しいです。

僕たちの興味はこれから変わっていくかもしれませんが、これからも家族と今のような時間が持てたらいいと思います。